

平成 30 年度調査からの経年変化を図 19、表 10 に示す。令和 4 年度以前の結果は 30 分インターバル設定のため、令和 5 年度の調査結果は 30 分インターバルで補正した。

その他の種について、ニホンザル、キツネ、タヌキ及びツキノワグマの補正個体数が過去最多となり、特にキツネとツキノワグマで顕著に増加していた。また、テン、ハクビシン、カモシカ及びニホンウサギについては減少傾向にあり、イタチ、アナグマ、イエネコ及びニホンリスは経年変化が少なく、イヌ及びアライグマは確認個体数自体が非常に少ないため増減について明確な傾向はみられなかった。

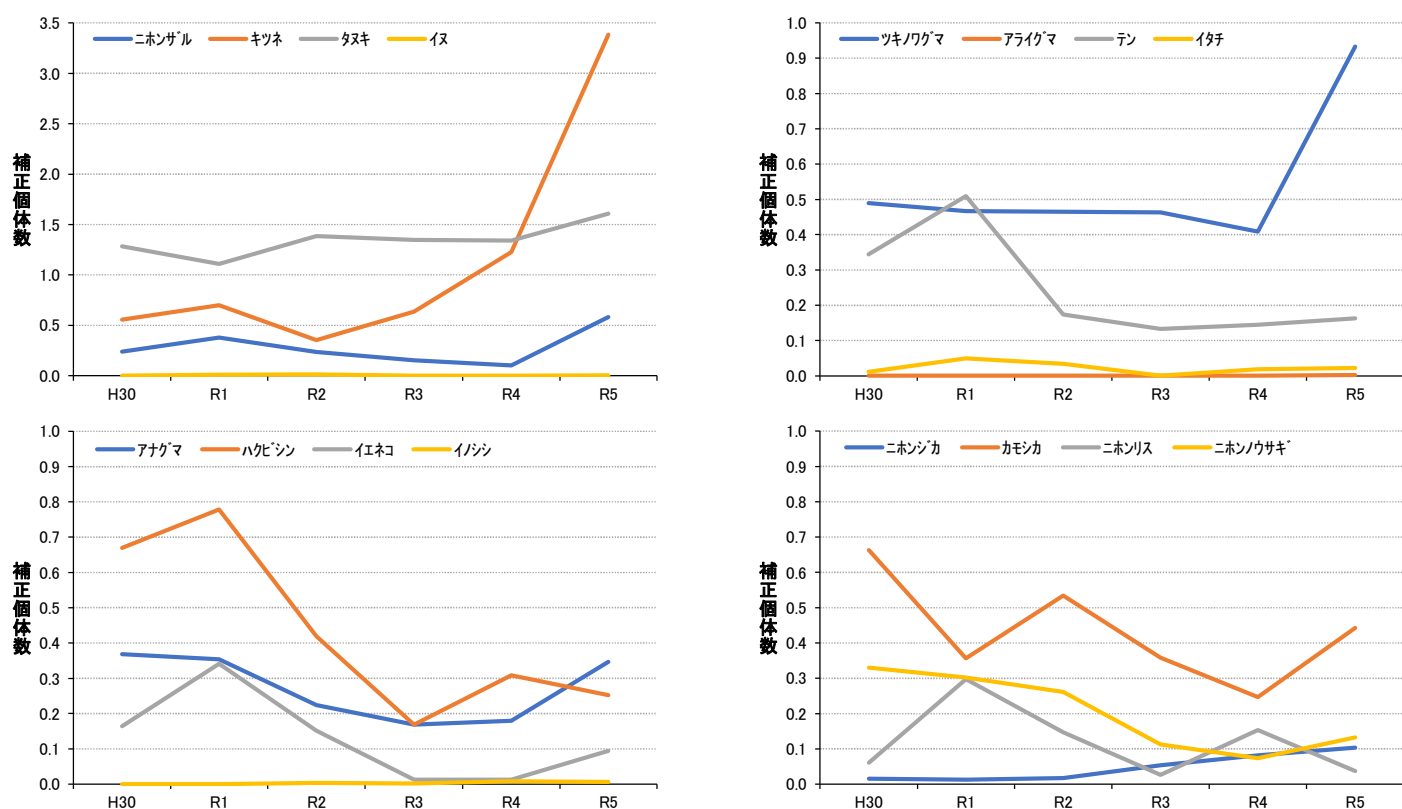


図 19 補正個体数の経年変化 (30 分インターバル)

表 10 各哺乳類種の経年撮影個体数

種名	H30 (5110CN)		R1 (5424CN)		R2 (5637CN)		R3 (5590CN)		R4 (4896CN)		R5 (4909CN)	
	撮影個体数	10CN補正	撮影個体数	10CN補正	撮影個体数	10CN補正	撮影個体数	10CN補正	撮影個体数	10CN補正	撮影個体数	10CN補正
ニホンサル <i>Macaca fuscata</i>	122	0.239	206	0.380	133	0.236	85	0.152	50	0.102	285	0.581
キツネ <i>Vulpes vulpes</i>	284	0.556	379	0.699	198	0.351	355	0.635	601	1.228	1661	3.384
タヌキ <i>Nyctereutes procyonoides</i>	655	1.282	601	1.108	780	1.384	754	1.349	657	1.342	789	1.607
イヌ <i>Canis familiaris</i>			5	0.009	7	0.012					2	0.004
ツキノアザマ <i>Ursus thibetanus</i>	250	0.489	253	0.466	262	0.465	259	0.463	200	0.408	458	0.933
アライグマ <i>Procyon lotor</i>											1	0.002
テン <i>Martes melampus</i>	176	0.344	276	0.509	98	0.174	74	0.132	71	0.145	80	0.163
イタチ <i>Mustela itatsi</i>	6	0.012	27	0.050	19	0.034			9	0.018	11	0.022
アザマ <i>Meles anakuma</i>	188	0.368	192	0.354	126	0.224	94	0.168	88	0.180	170	0.346
オビシツ <i>Paguma larvata</i>	342	0.669	422	0.778	236	0.419	94	0.168	151	0.308	124	0.253
イネコ <i>Felis catus</i>	84	0.164	185	0.341	85	0.151	7	0.013	6	0.012	46	0.094
イノシシ <i>Sus scrofa</i>					2	0.004	1	0.002	4	0.008	3	0.006
ニホンカ <i>Cervus nippon</i>	8	0.016	7	0.013	10	0.018	30	0.054	40	0.082	51	0.104
カモシカ <i>Capricornis crispus</i>	339	0.663	193	0.356	301	0.534	200	0.358	121	0.247	217	0.442
ニホンリス <i>Sciurus lis</i>	31	0.061	161	0.297	83	0.147	15	0.027	75	0.153	18	0.037
ニホンノササギ <i>Lepus brachyurus</i>	169	0.331	164	0.302	147	0.261	63	0.113	36	0.074	65	0.132

※CN = カメラナイト数.

注 1) 調査地点数 : H30 = 30 箇所, R1 = 30 箇所, R2 = 30 箇所, R3 = 30 箇所, R4 = 26 か所, R5 = 28 箇所.

（５）ニホンジカ・イノシシ及び外来哺乳類の確認状況

近年分布域の拡大及び定着が懸念されているニホンジカ、イノシシ及び外来哺乳類について、インターバルなしで撮影された結果を解析した。

【ニホンジカ】

本業務期間中、調査地点 6 で 23 個体、調査地点 17 で 17 個体、調査地点 26 で 11 個体、調査地点 3 で 9 個体、調査地点 1 で 8 個体、調査地点 15 で 4 個体、調査地点 2・9・25 で各 3 個体、調査地点 11・12 で各 2 個体、調査地点 4・5・10・16・21・23・24 で各 1 個体が撮影され、合計すると 28 地点中 18 地点で 92 個体が撮影された（表 8、写真票 38～52）。撮影地点を図 20 に示す。撮影地点別にみると、八峰町で最も撮影個体数が多く、藤里町の粕毛林道側での撮影個体数もこれに準ずるが、岳岱側での撮影個体数は非常に少ない。撮影された 92 個体はほとんどがオスであったが、そのうち 6 個体はメスであった。月別では、5 月以降のすべての月で確認され、特に 10 月がピークになった。

冬期間では、調査地点 2 で令和 4 年 12 月 27 日にオス 1 個体が撮影された。

また、過年度の調査結果を含め、カメラ設置台数に対するニホンジカが撮影された地点数の割合を表 11 に示す。なお撮影地点数について、令和 5 年度の 7 月以前は 30 分インターバルでの撮影を行っているため、インターバルなしの設定を開始した 8 月以降の記録は 30 分インターバルを想定して補正した。カメラの設置地点や設置台数が変化しているものの、令和元年度以降は撮影地点数の増加傾向が続いている。

表 11 ニホンジカの撮影地点数の経年変化

年	撮影地点数	カメラ設置台数	割合（％）
H30	8	30	26.7
R1	3	30	10.0
R2	8	30	26.7
R3	11	30	36.7
R4	15	26	57.7
R5	18	28	64.3

※インターバルなしに設定した令和 5 年度は 30 分インターバルで補正した結果を示す。

【イノシシ】

調査地点 12 で 4 個体、調査地点 6・7・9 で各 1 個体の計 7 個体のイノシシが撮影された（表 8、写真票 53, 54）。撮影地点を図 21 に示す。主な撮影地点は八峰町だったが、藤里町でも撮影されている。撮影時期は 5 月、7 月及び 10 月で、冬期間は撮影されなかった。1 回の撮影（3 枚連写）における最大個体数はいずれも 1 個体であり、まだ群れの確認はない。

【外来哺乳類】

この他外来哺乳類としてハクビシンが 15 地点で計 137 個体、アライグマが 1 地点で計 1 個体撮影された（表 8、写真票 55）。撮影地点を図 22・23 に示す。アライグマについては今回が秋田側で初めての撮影となった。

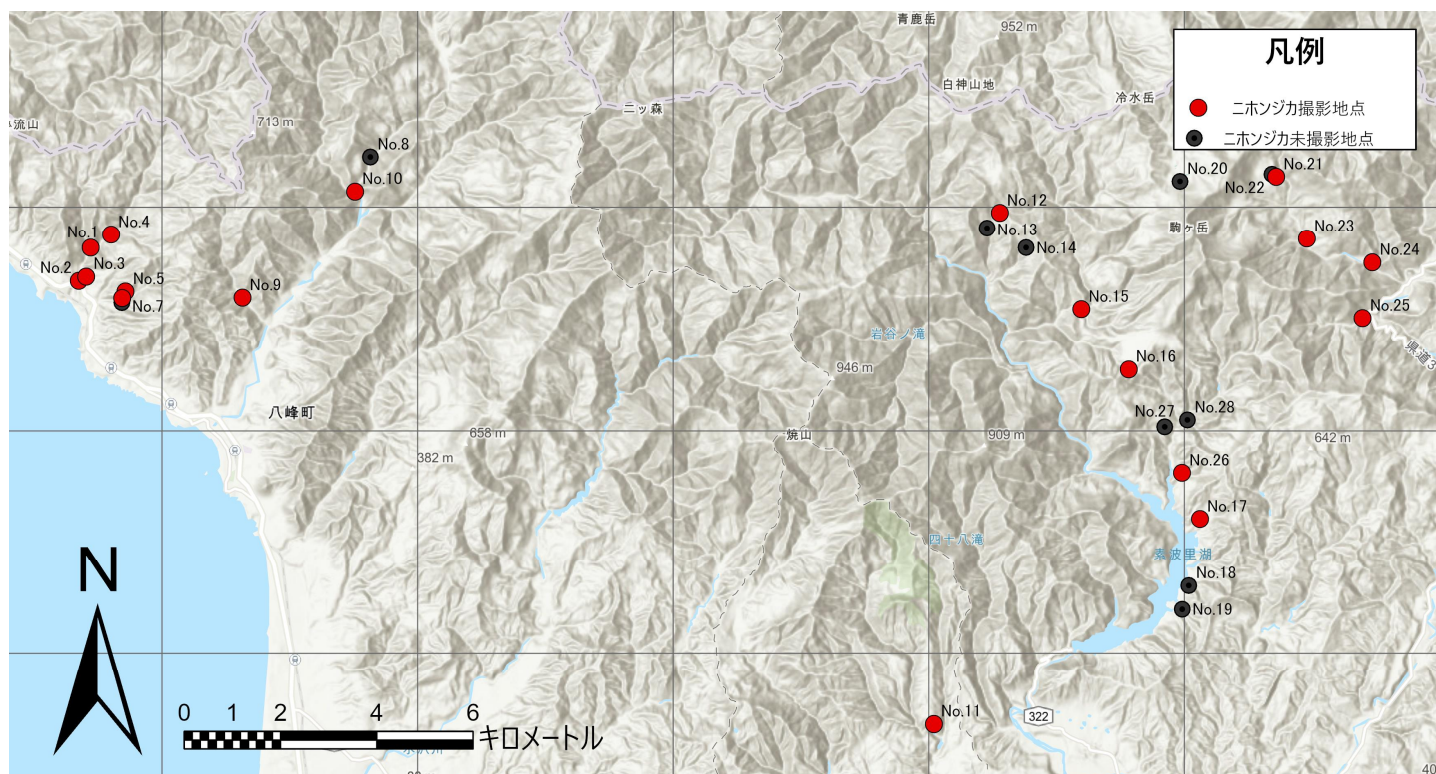


図 20 ニホンジカ撮影位置

※調査期間：令和 5 年 5 月～11 月

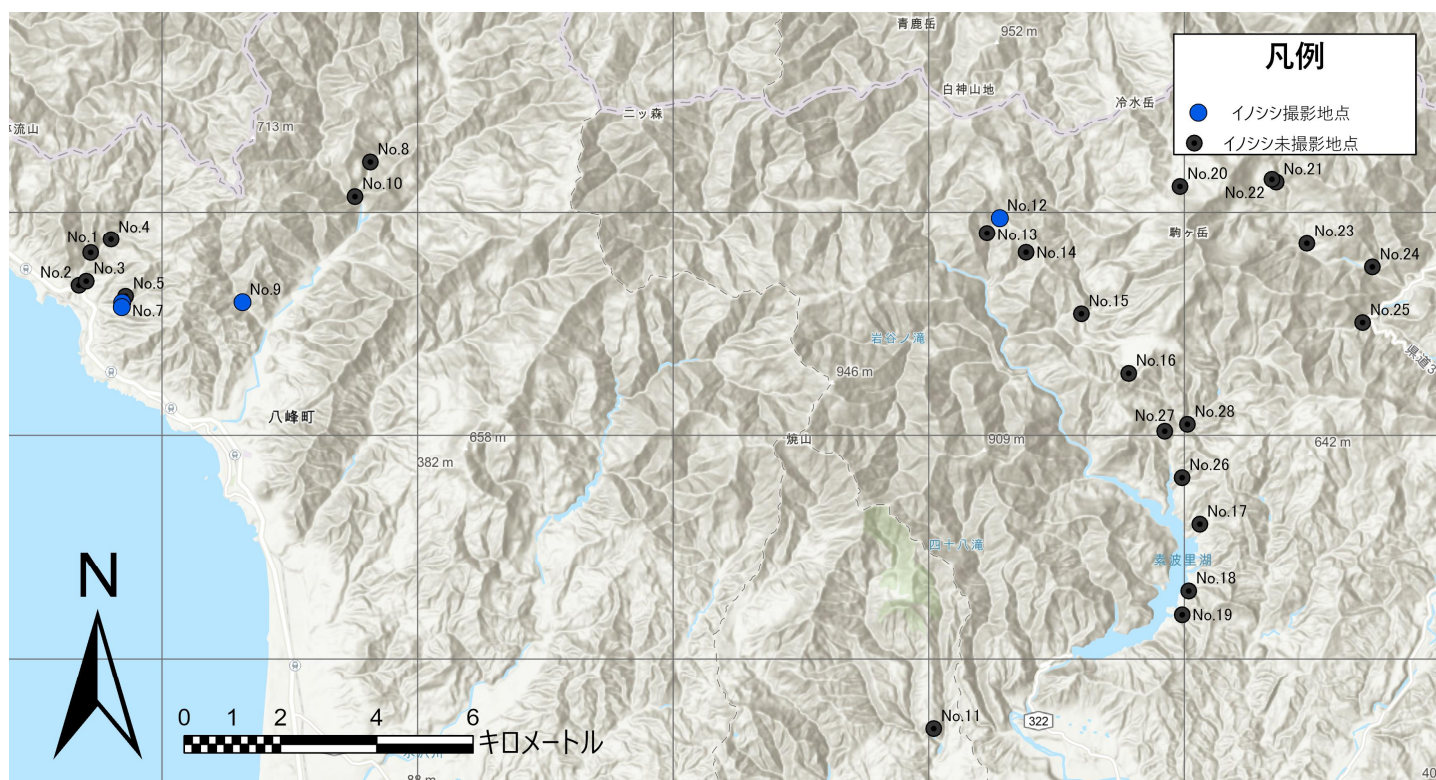


図 21 イノシシ撮影位置

※調査期間：令和 5 年 5 月～11 月

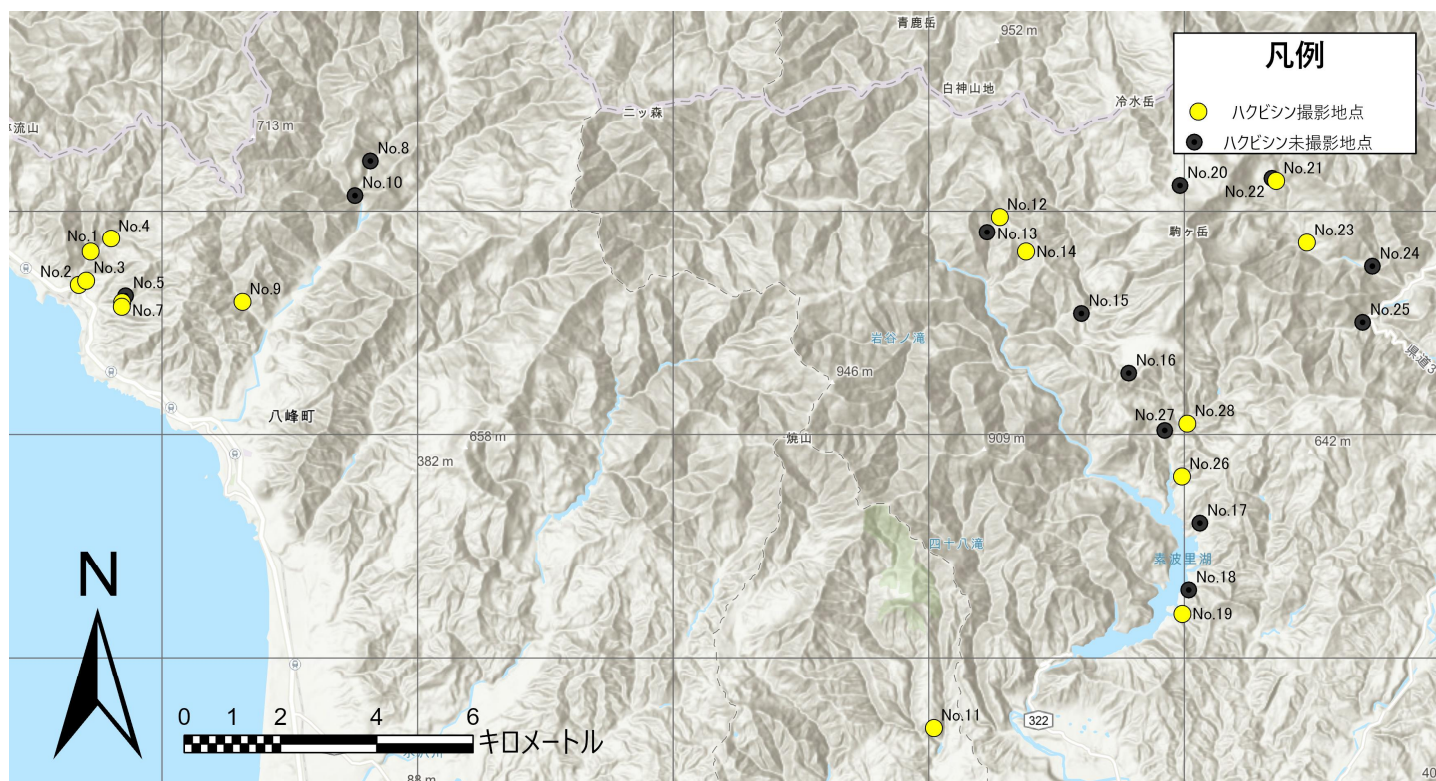


図 22 ハクビシン撮影位置

※調査期間：令和 5 年 5 月～11 月

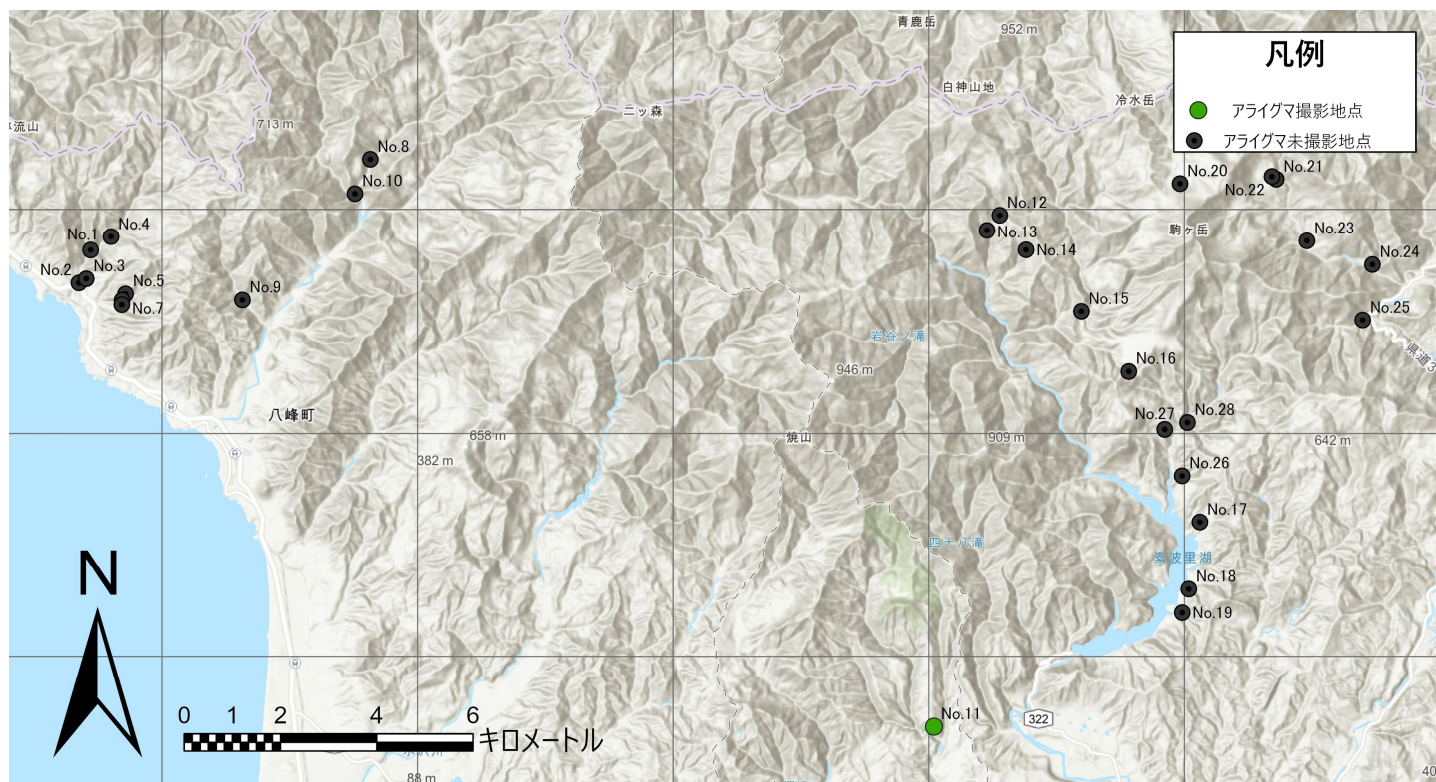


図 23 アライグマ撮影位置

※調査期間：令和 5 年 5 月～11 月